

AXIES2023 年次大会 企画セッション 14PM1E  
2023/12/14 13:30～15:00

---

# 高等教育機関におけるICT利活用の 現状と展望 ～令和5年度調査の結果から～

AXIES ICT利活用調査部会  
主査 重田勝介(北海道大学)

# 本日のあらまし

---

- 部会の概要とこれまでの活動
- 令和5年度調査について
  - 機関向け調査の概要
  - 教員向け調査の概要
- 質疑応答
- 教員向けアンケートへのご協力願い

# ICT利活用調査部会 活動目的

---

- 高等教育機関におけるICT利活用の重要性
  - 大学教育の質向上やスケーラビリティの確保
  - 多様な学び手に対する学習機会の提供手段
- ICT利活用の実態把握が不可欠
  - エビデンスに基づいた利活用の未来像提示
- 国内外におけるICT活用教育の調査を実施
  - 過去の類似調査による蓄積と成果を引き継ぐ

# 体制・構成員

---

- ・ 担当理事 : 福本昌弘 (高知工科大学)
- ・ 主 査 : 重田勝介 (北海道大学)
- ・ 構成員 : 酒井博之 (京都大学)  
辻靖彦 (放送大学)  
稲葉利江子 (津田塾大学)  
平岡齊士 (放送大学)  
伏木田稚子 (東京都立大学)

# 報告書の公開

- 2017実施 ICT利活用に関する調査
- 2018実施 BYODに関する調査
- 2020実施 ICT利活用に関する調査(速報版・詳細版)
- AXIES 部会HPで公開
- 過去調査の一覧も掲載

高等教育機関における ICT の利活用に関する調査研究  
結果報告書  
(第3版)

平成28年11月

大学ICT推進協議会 (AXIES) ICT利活用調査部会

**AXIES** 大学ICT推進協議会

# 令和5年度調査について

---

- 「高等教育機関におけるICT利活用に関する調査研究」
  - 前回調査の内容を踏襲し、コロナ禍を経た高等教育機関におけるICT活用教育の状況を把握する
  - 一部の項目で教員向け調査を新たに実施する
- 調査期間
  - 2023年12月から2024年3月まで
- ご依頼
  - 前回と同様、文部科学省高等教育局専門教育課にご協力
  - 今回より、専門教育課より各大学にメールで依頼文を送付
- 今週より調査を開始

# 令和5年度調査の概要

---

- 機関向け調査(大学・短大・高専の教務担当者が回答)
  - 組織戦略・オープンエデュケーション(重田)
  - LMS、eポートフォリオ(稲葉)
  - ICT活用教育導入の効果等(辻)
  - 組織体制(酒井)
  - コロナ対応(伏木田)
  - ICT活用教育実施状況(平岡) ※ビデオ
- 教員向け調査(大学・短大・高専に所属する教員が回答)
  - ICT活用教育実施状況、OE、コロナ対応(重田)

---

**【機関向け調査】**  
**組織戦略・オープンエデュケーション**



# 組織戦略

- 目的: ICT活用教育に対する組織戦略を把握
  - 各機関においてICT活用教育に対してどのようなビジョンやミッションを有しているか？
  - どの程度リソース(人とお金)を配分しているか？
  - どのようなICT活用教育の取り組みを重視しているか？
- 問題意識: 組織戦略の取り組みへの影響を把握
  - LMS等の導入、ICTインフラの導入、組織体制等・・・
  - ICT活用教育を推進する基礎的な要因を把握する
  - 続く調査項目に対する独立変数として分析する

# 組織戦略 質問項目(1)

---

- ICT活用教育を機関として重要と考えていますか？
- ICT 活用教育の推進が組織のビジョンやアクションプランや中期計画に記述されていますか？
  - 今後の記述予定についてご回答下さい。
- ICT活用教育の推進に関する計画は全学レベルで立案されていますか？
- ICT 活用教育を推進する組織はありますか？それは学内のどのレベルの組織ですか？

## 組織戦略 質問項目(2)

---

- ICT活用教育の推進に関する資金はどのように確保していますか？
  - どの程度の予算を確保していますか？(昨年度1年間)
- ICT活用教育の推進に関する人材はどのように確保していますか？
- ICT活用教育の効果測定は行われていますか？
  - 測定結果は次期の実施に向けて反映されていますか？

# 組織戦略 質問項目(2)

- 今後3年の間、組織において以下のICTに関わる項目に取り組むことをどの程度重要だと考えていますか？

(1) ICTを教育に活用するための支援	(5) 学生の学習効果の向上や修了促進のためのICTおよび支援サービスの充実	(9) 技術的なトラブルに備えたICTを活用した業務の継続性確保と対策	(13) 経年機材(ハード、ソフト)更新のための予算確保	(17) 他機関とのサービス共有やICT関連業務の提携
(2) ICT活用を支援する資質の高いスタッフの雇用	(6) モバイル端末の導入支援	(10) 学習データ分析(ラーニングアナリティクス)	(14) BYOD(Bring Your Own Device)の支援と管理	(18) LMSの更新
(3) ユーザーサポートの提	(7) オンライン教育および遠隔教育の支援	(11) 経営データ分析(インスティテューショナルリサーチ)	(15) クラウドコンピューティングへの移行	(19) デジタルコンテンツの管理
(4) ネットワークおよびデータのセキュリティ強化	(8) ICTスタッフのための専門性育成	(12) 学内ネットワークの更新	(16) 組織経営に用いるICTシステムの更新	(20) ソーシャルメディアの教育利用

# 令和2年度調査(前回調査)の結果

- 今後3年間で取り組みが必要な事項  
(括弧内は「とても重要である」と回答した大学の割合)
  - ネットワークおよびセキュリティの強化(76.8%) 5%増加
  - ICTを教育に活用するための支援(74.2%) 15%増加
  - 経年機材の更新に向けた予算確保(63.1%) 5%増加
  - オンライン教育および遠隔教育の支援(62.1%) 45%増加
  - 学生の学習効果の向上や修了促進のためのICTおよび支援サービスの充実(61.9%) 10%増加
- コロナ禍の影響が見て取れる

高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望 ～令和5年度調査の結果から～

# ICT活用教育実施状況 ーLMS・eポートフォリオ・ICT環境についてー

稲葉利江子 (津田塾大学)

## ■本カテゴリの調査目的

教育活動において、ICT環境の整備状況の把握すること

### 調査項目

- LMSについて
- ビデオ会議システム
- eポートフォリオ
- 全学的なICT環境の導入状況
- メディアを利用して行う授業

2023年度調査では、以下を追加

- 高等教育機関がどのような観点でICTツールの選定を行っているか
- 大学設置基準に定められている「メディアを利用して行う授業」の科目数

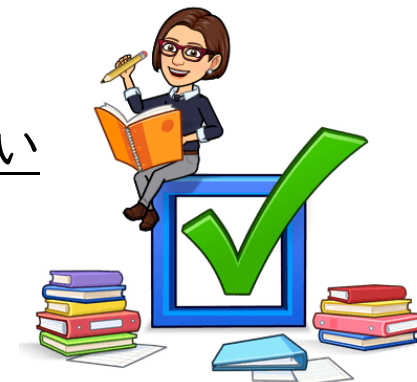
# LMSの導入・利用状況



# ■調査対象と大学規模（2020年度調査）

## ■対象

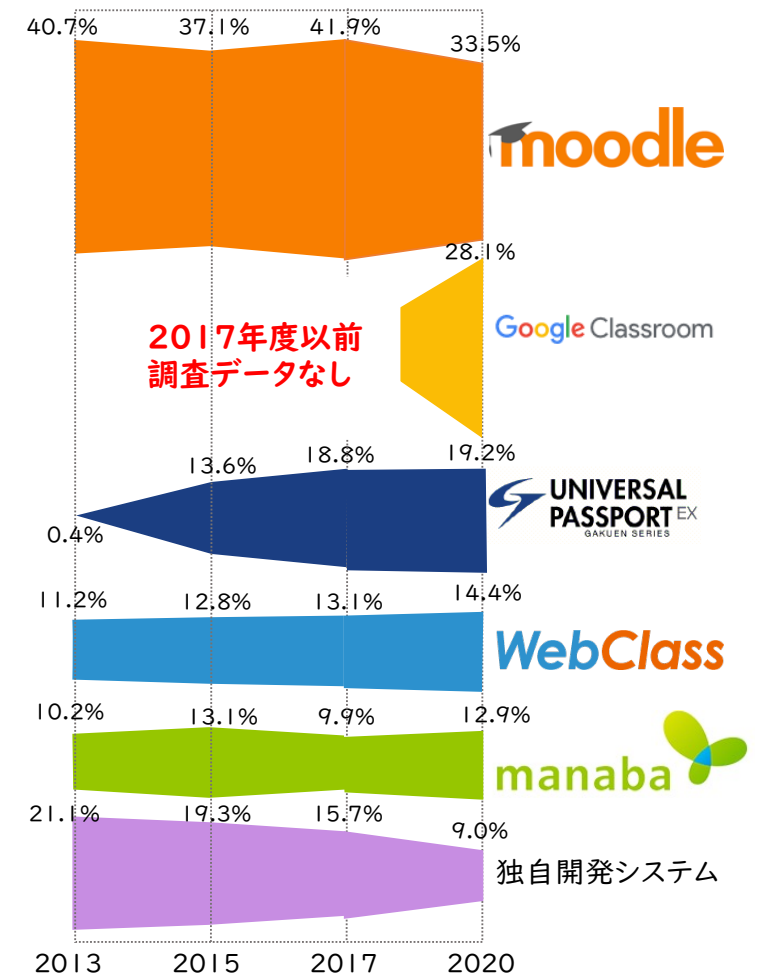
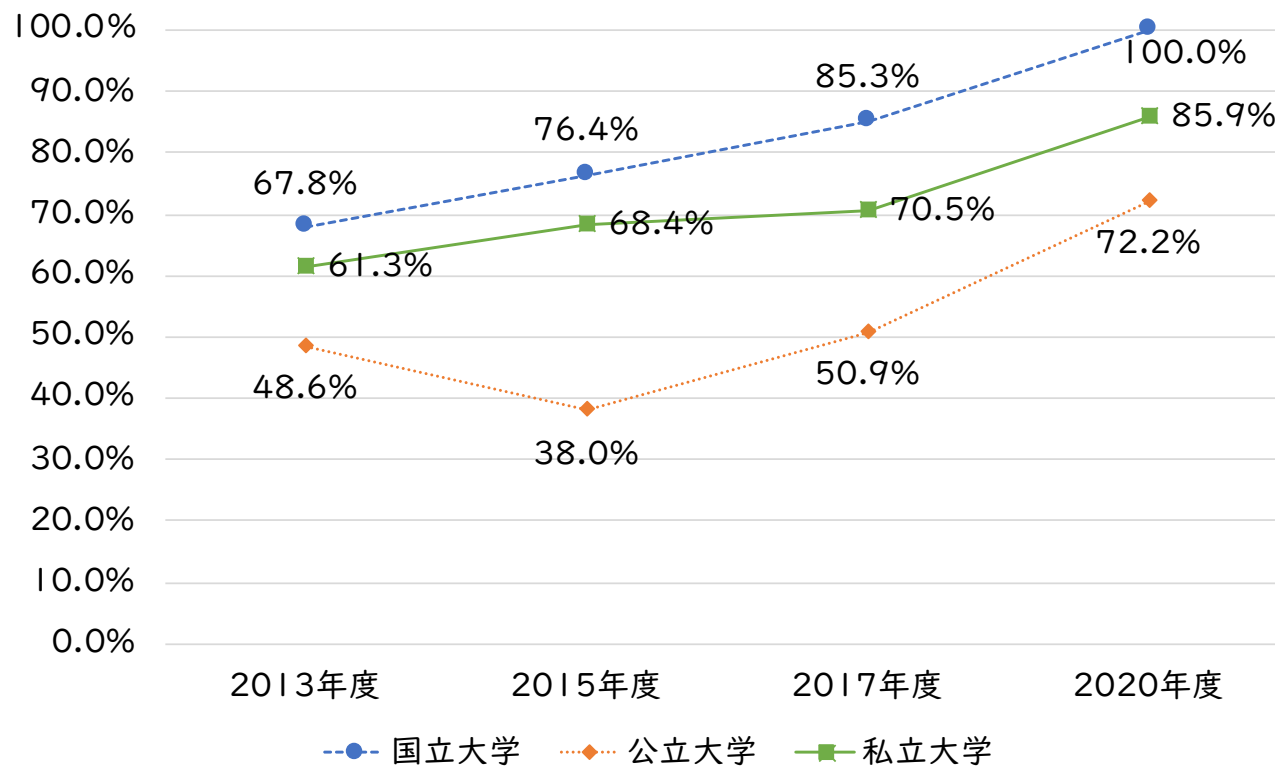
- 大学事務局用アンケートに回答された385機関のうち学部生のいない大学院大学等を除く4年制大学383機関を対象
- 大学規模（学部学生数）を基に、5つに分類



規模（学部学生数）	国立大学	公立大学	私立大学	大学合計
A群（10,001名以上）	7	0	32	39（10.2%）
B群（5,001～10,000名）	20	4	41	65（17.0%）
C群（3,001～5,000名）	12	1	30	43（11.2%）
D群（1,001～3,000名）	8	12	100	120（31.3%）
E群（1,000名以下）	3	19	94	116（30.3%）
合計	50	36	297	383

# 2020年度調査結果：LMSの導入状況

いずれの設置者別においても増加傾向



# ■LMSの利用科目割合

「LMSを利用している科目数／開講科目数」で算出した割合の平均値  
LMSを利用している科目数が「わからない」という機関は除外

国立：68.4% (20.5%)、公立：84.3% (28.4%)、私立：81.7% (31.3%)

( )内は2017年度調査

	A群 (n=39)	B群 (n=65)	C群 (n=43)	D群 (n=120)	E群 (n=116)
全学導入割合	97.4% (38)	96.9% (63)	93.0% (40)	90.0% (108)	70.7% (82)
利用科目割合	68.2%	74.3%	77.2%	84.1%	70.8%
利用科目数未把握割合	31.6%	22.2%	25.0%	31.5%	46.3%

- いずれの規模群においても、利用科目割合が増加
- 科目数未把握割合は、E群が高い→管理体制がされていない傾向？

## ■ 質問項目

コロナ禍で、LMSの利用が進んだ。

2022年度よりほとんど対面授業に戻った今、LMSは継続的に利用されているのか？

LMSはどのように選定しているのか？



### 質問項目

- 全学で学習管理システム(LMS)を導入・運用していますか
- 利用しているLMSの種類は？
- **利用しているLMSの選定理由は？**
- 全学の学習管理システム(LMS)を、実際に利用している授業数は？

## ■LMSの選定理由

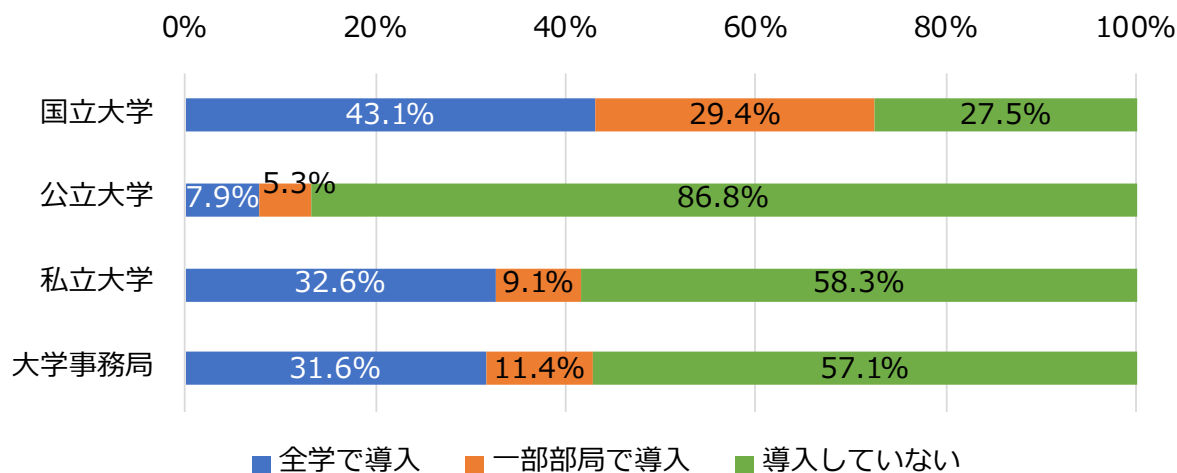
問 22. 問 20 で「1. はい」と回答された方へお聞きします。利用している LMS を選定した理由をすべて選択してください。（複数回答可）

1	その LMS についての知識や技術をもった教職員が学内にいるから
2	多くの大学で利用されており、導入方法や利用事例が得やすいから
3	多くの大学で利用されており、導入理由を学内に説明しやすいから
4	取り扱える業者が多く、相見積もりを取りやすいから
5	オープンソースソフトウェアであるから
6	必要な機能が備わっているから
7	機能に見合った価格だから
8	導入費用が安価だから
9	教務システムなど他のシステムとの連携がしやすいから
10	既に導入している教育システムに付属していたから
11	その他（      ）

# eポートフォリオの導入・利用状況

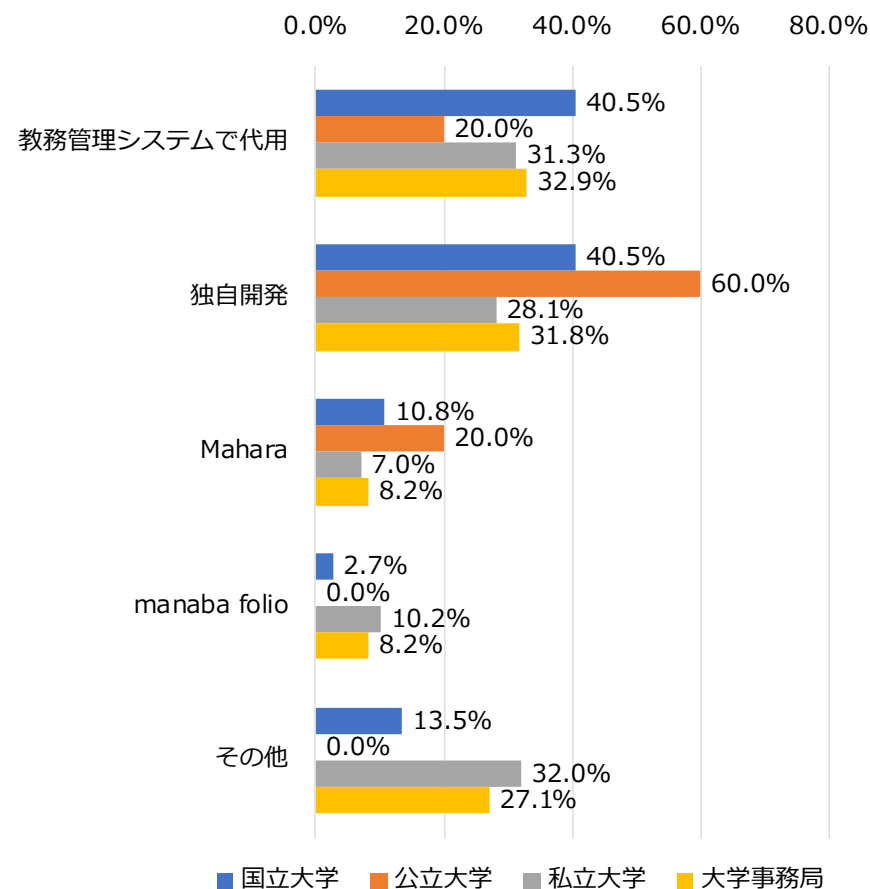
# 2020年度調査結果：eポートフォリオの導入状況

2017年度に比べ、導入率はほぼ変わらない。



## eポートフォリオの主な導入理由

- 学生の学習状況の記録・活用 するため
- 教員が学生の学習状況を把握するため



## ■ 質問項目

中央教育審議会の答申

「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年）

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（平成24年）  
において、学修ポートフォリオの導入と活用が提言されている。



2017年度、2020年度と比べ、導入率は増加しているのか？  
導入されている機関はどのように選定しているのか？

### 質問項目

- 全学でeポートフォリオを導入・運用していますか
- 利用しているeポートフォリオを選択してください
- eポートフォリオの導入目的はなんですか
- eポートフォリオの選定理由を選択してください



# ■eポートフォリオの選定理由

問 29 問 26 で「1. はい」と回答された方へお聞きします。利用している e ポートフォリオを選定した理由をすべて選択してください。（複数回答可）

1	その e ポートフォリオシステムについての知識や技術をもった教職員が学内にいるから
2	多くの大学で利用されており、導入方法や利用事例が得やすいから
3	多くの大学で利用されており、導入理由を学内に説明しやすいから
4	取り扱える業者が多く、相見積もりを取りやすいから
5	オープンソースソフトウェアであるから
6	必要な機能が備わっているから
7	機能に見合った価格だから
8	導入費用が安価だから
9	教務システムなど他のシステムとの連携がしやすいから
10	既に導入している教育システムに付属していたから
11	その他（ ）

# ICT環境の導入状況

# ■ICT環境の導入状況（2020年度調査）

- インフラ
  - キャンパス内の無線LAN
  - メールシステム
  - ウェブサイト管理システム
- 教務管理
  - シラバスの公開
  - 入学手続きシステム
  - 履修登録システム
  - 学生情報システム
- 学修支援
  - 講義収録システム
  - 講義教材・ビデオの一般公開
  - 電子教科書の作成・提供
- 学生支援
  - 入学予定者向けサービスの提供
  - ヘルプデスクの設置
- 大学広報
  - 機関が提供している公式SNS
  - 卒業生向けサービスの提供
  - 顧客管理システム

- シラバス公開や履修登録システムが9割を超えた
- 入学手続きシステムは、Web出願の利用増加に伴い、2017年度調査より増加傾向
- 講義収録システムの導入が約5割
- 公式SNSの導入が2017年度調査より増加傾向

## ■ 質問項目

コロナ禍を経て、ICTの環境整備が進んだのではないかと？

講義収録・配信について世情に合わせて改訂。

これまでは、教育活動以外におけるICTツールについても調査をしてきたが、調査目的に合わせて、ICT活用教育に関わるツールのみに削減。

- インフラ
  - キャンパス内の無線LAN
  - メールシステム
  - Webサイト管理システム
- 教務管理
  - シラバスの公開
  - 履修登録システム
- 学修支援
  - 講義収録システム
  - 講義動画配信システム
  - 動画配信サービス
  - 電子教科書の作成・提供
- 学生支援
  - 入学予定者向けサービスの提供
  - ヘルプデスクの設置



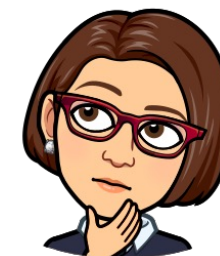
NEW

# メディアを利用した授業

## ■ 質問項目

コロナ禍後にも、オンライン授業が継続されているのか？

- 対面授業におけるオンラインの活用
- **メディアを利用した授業**の開講（大学設置基準）



問 31. 今年度、「メディアを利用して行う授業」として開講されている科目数について教えてください。なお、ここでの「メディアを利用して行う科目数」は、大学設置基準に定められている「メディアを利用して行う授業」の科目数を指します。

1	約（        ）科目	0	分からない
---	---------------	---	-------

# ICT活用教育導入の効果等

辻 靖彦(放送大学)

# 報告内容

1. 2020年度調査結果の振り返り
2. 2023年度調査における担当項目の修正点
3. 2023年度調査における分析方法（の見通し）



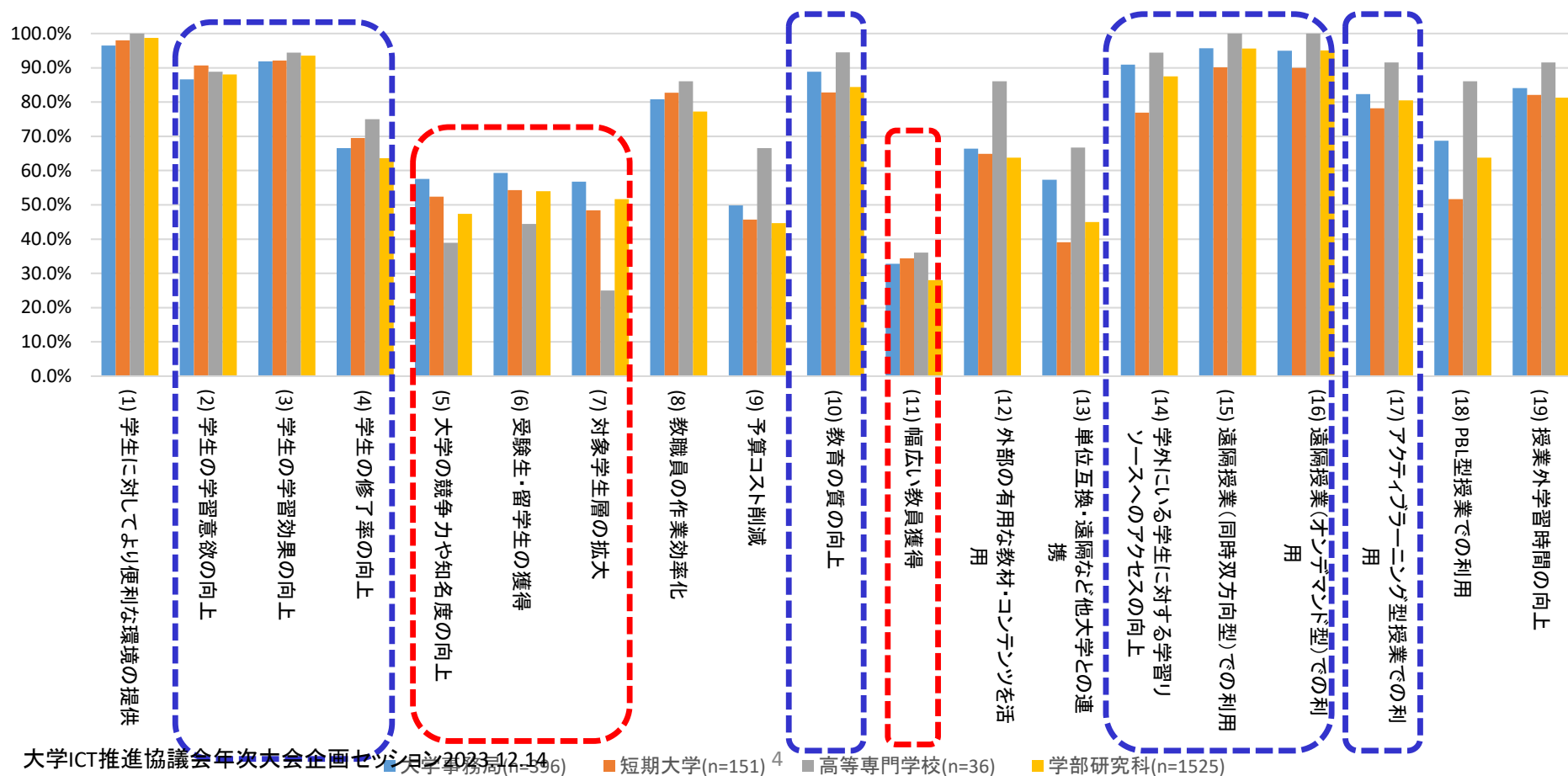
# 2023年度調査:担当調査項目と修正点

- ICT活用教育に**期待される効果**
  - 19→21項目 ←**ブレンド型授業／ハイブリッド型授業での利用**を追加
  - 「よくあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法
- ICT活用教育の導入により**得られた効果**
  - 効果の有無:「よく得られた」～「全く得られなかった」の4件法
  - 効果の詳細:19→21項目を4件法
- ICT活用教育の導入を妨げる**阻害要因**
  - 阻害要因の有無
  - 要因の詳細:13項目(20年調査から**据え置き**)を4件法

# 【2020年度調査】ICT活用教育に期待される効果

多：遠隔授業での利用, より便利な環境, 学習意欲/効果, 質向上, AL, 授業外学習

少：大学の競争力・知名度の向上, 対象学生層の拡大, 幅広い教員獲得



# 2023年度調査項目①期待される効果

Q：ICT活用教育に期待される効果は何ですか？以下の各盲目についてご回答ください。

(1) 学生に対してより便利な環境の提供	(12) 外部の有用な教材・コンテンツを活用
(2) 学生の学習意欲の向上	(13) 単位互換・遠隔合同授業など他大学との連携
(3) 学生の学習効果の向上	(14) 学外にいる学生に対する学習リソースへのアクセスの向上
(4) 学生の修了率の向上	(15) 遠隔授業（同時双方向型）での利用
(5) 大学の競争力や知名度の向上	(16) 遠隔授業（オンデマンド型）での利用
(6) 受験生・留学生の獲得	(17) （遠隔授業と対面授業を組み合わせた）ブレンド型授業での利用
(7) 対象学生層の拡大	(18) （遠隔授業と対面授業を同時に行う）ハイブリッド型授業での利用
(8) 教職員の作業効率化	(19) アクティブラーニング型授業での利用
(9) 予算コスト削減	(20) PBL型授業での利用
(10) 教育の質の向上	(21) 授業外学習時間の向上
(11) 幅広い教員獲得	※「よくあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法で回答

赤字：2023年度調査の追加・修正分

青字：2020年度調査の追加・修正分

# 2023年度調査項目②得られた効果

## 効果の有無

Q：ICT活用教育を導入して  
実際に効果は得られましたか？

「よくみられる」「ややみられる」  
「あまりみられない」「全くみられない」  
の4件法で回答

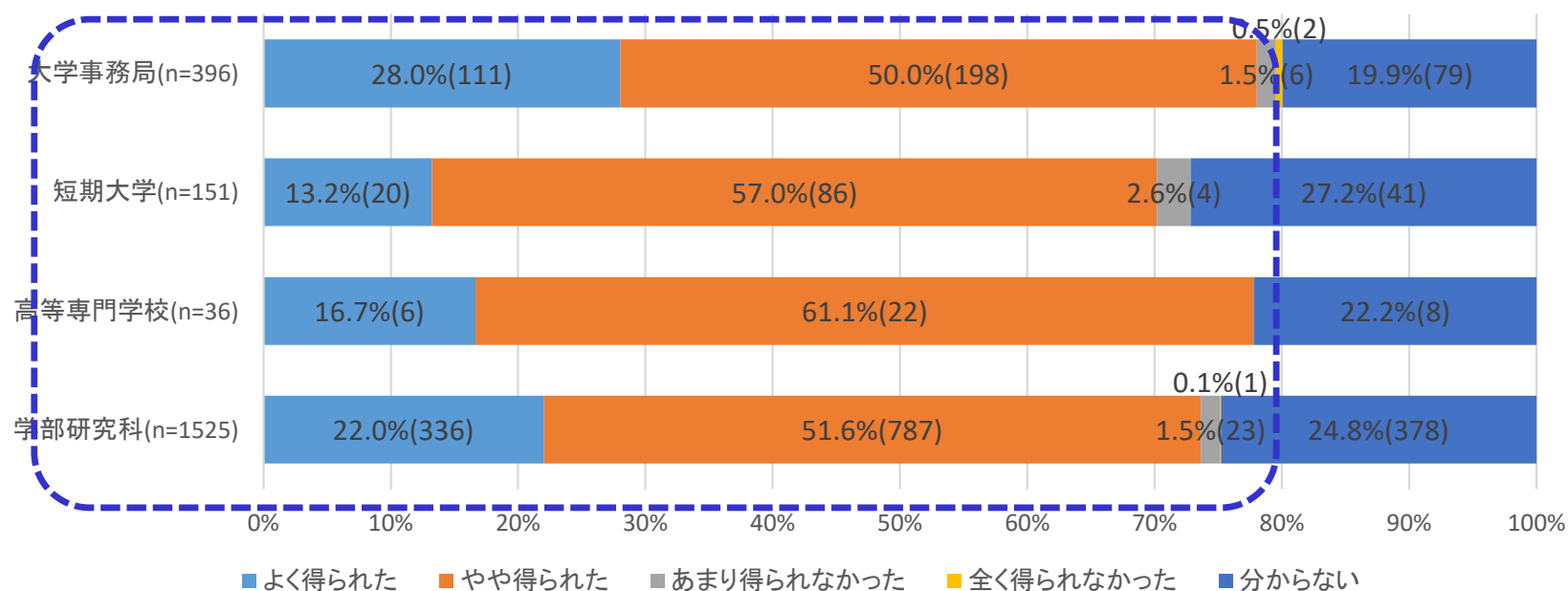
## 効果の詳細

Q：得られた効果は何ですか？  
以下の各項目についてご回答下さい

21の小項目に対して  
「よくあてはまる」～「全くあてあまらない」の  
4件法で回答

## 【2020年度調査】ICT活用教育の効果はみられたか

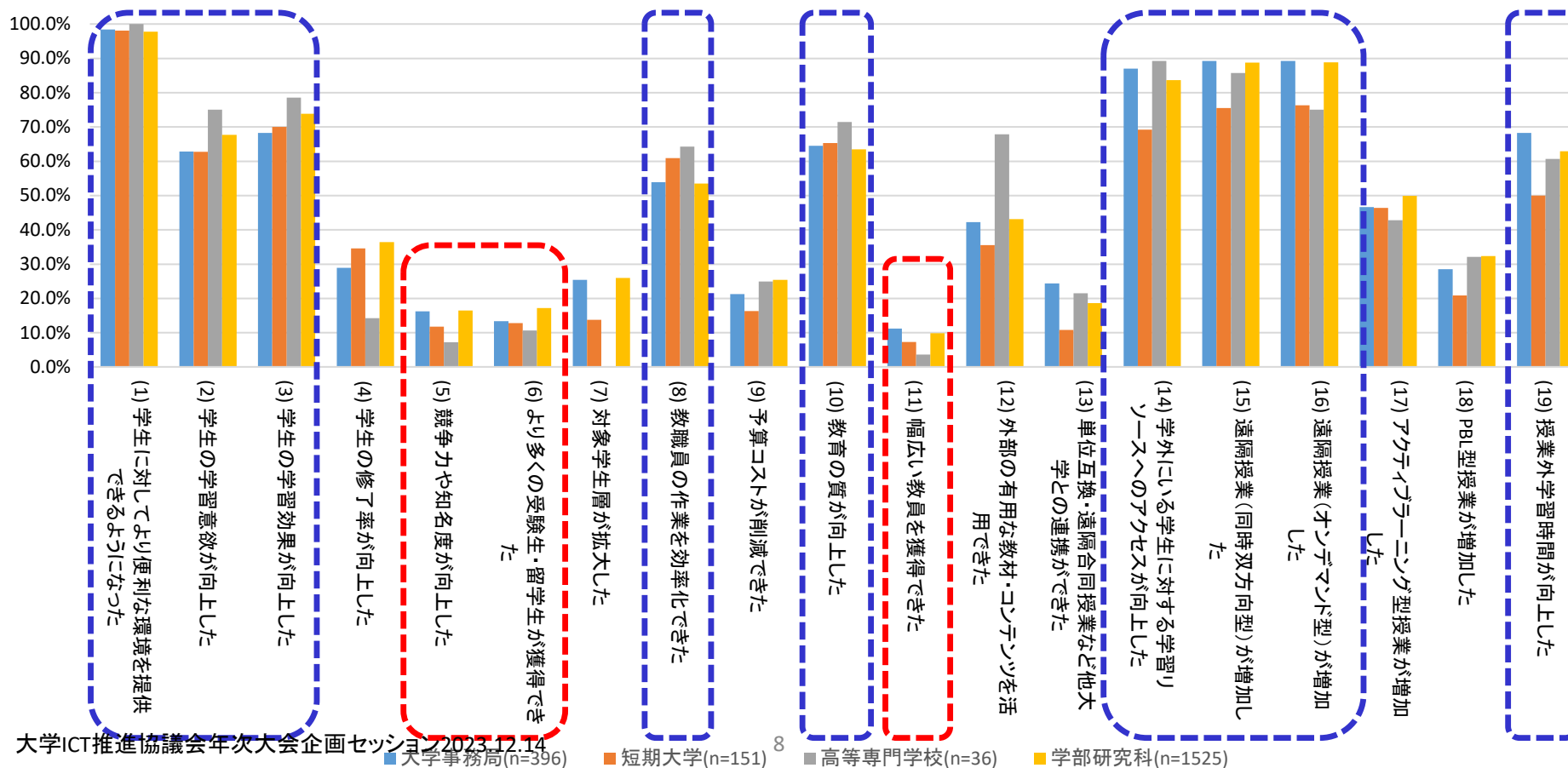
- 7～8割前後の機関が「効果がみられた」と回答
  - 短期大学がやや少ない傾向
- 残りの約2～3割が「分からない」と回答



# 【2020年度調査】ICT活用教育導入による具体的効果

**多**：遠隔授業での利用, 学外へのリソースのアクセス, より便利な環境, 学習意欲/効果, 作業効率化, 質向上, 授業外学習時間が向上

**少**：幅広い教員獲得, 大学の競争力・知名度の向上, 受験生・留学生の獲得



大学ICT推進協議会年次大会企画セッション 2023.12.14  
 大学事務局(n=396)

短期大学(n=151) 高等専門学校(n=36) 学部研究科(n=1525)

# 2023年度調査項目②得られた効果

Q：得られた効果は何ですか？以下の各項目についてご回答下さい

(1) 学生に対してより便利な環境を提供できるようになった		(12) 外部の有用な教材・コンテンツを活用できた	
(2) 学生の学習意欲が向上した	教育的効果	(13) 単位互換・遠隔合同授業など他大学との連携ができた	
(3) 学生の学習効果が向上した		(14) 学外にいる学生に対する学習リソースへのアクセスが向上した	
(4) 学生の修了率が向上した	大学経営	(15) 遠隔授業（同時双方向型）が増加した	教育方法改善
(5) 競争力や知名度が向上した		(16) 遠隔授業（オンデマンド型）が増加した	
(6) より多くの受験生・留学生が獲得できた	コスト削減	(17) （遠隔授業と対面授業を組み合わせた）ブレンド型授業が増加した	
(7) 対象学生層が拡大した		(18) （遠隔授業と対面授業を同時に行う）ハイブリッド型授業が増加した	
(8) 教職員の作業を効率化できた		(19) アクティブラーニング型授業が増加した	
(9) 予算コストが削減できた		(20) PBL型授業が増加した	
(10) 教育の質が向上した		(21) 授業外学習時間が向上した	
(11) 幅広い教員を獲得できた			

※「よくあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法で回答

赤字：2023年度調査の追加・修正分

青字：2020年度調査の追加・修正分

# 2023年度調査項目③阻害要因

## 阻害要因の有無

Q：ICT活用教育の導入や推進を  
阻害する要因（阻害要因）は存在  
しますか？

「全く存在しない」「あまり存在しない」  
「やや存在する」「多数存在する」  
の4件法で回答

## 阻害要因の詳細

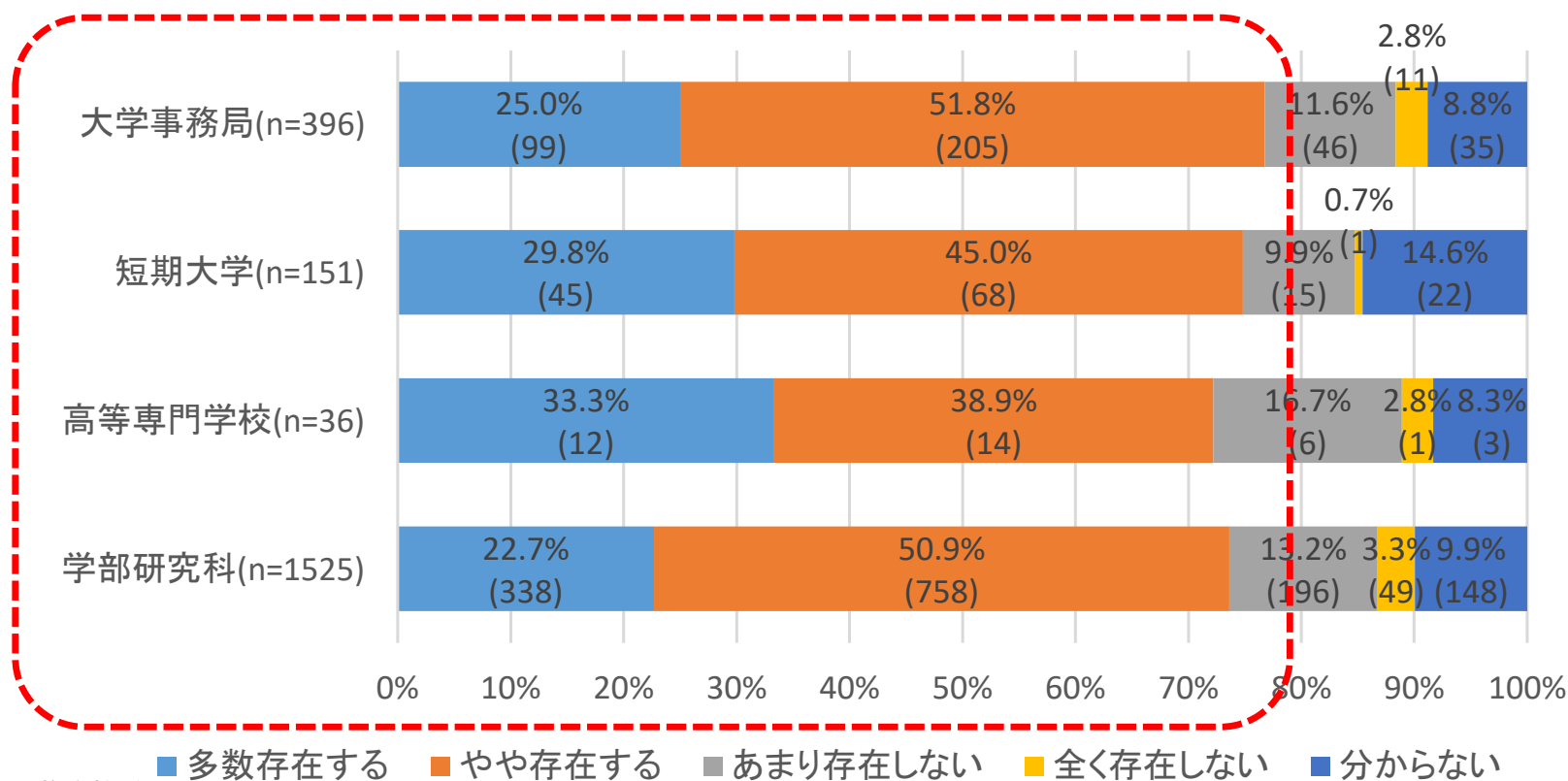
Q：その阻害要因は何ですか？  
以下の各項目についてご回答下さい

13小項目に対して  
「よくあてはまる」～「全くあてあまらない」の  
4件法で回答



# 【2020年度調査】導入を妨げる阻害要因の有無

- 7割を超える機関が「阻害要因が多数／やや存在する」と回答

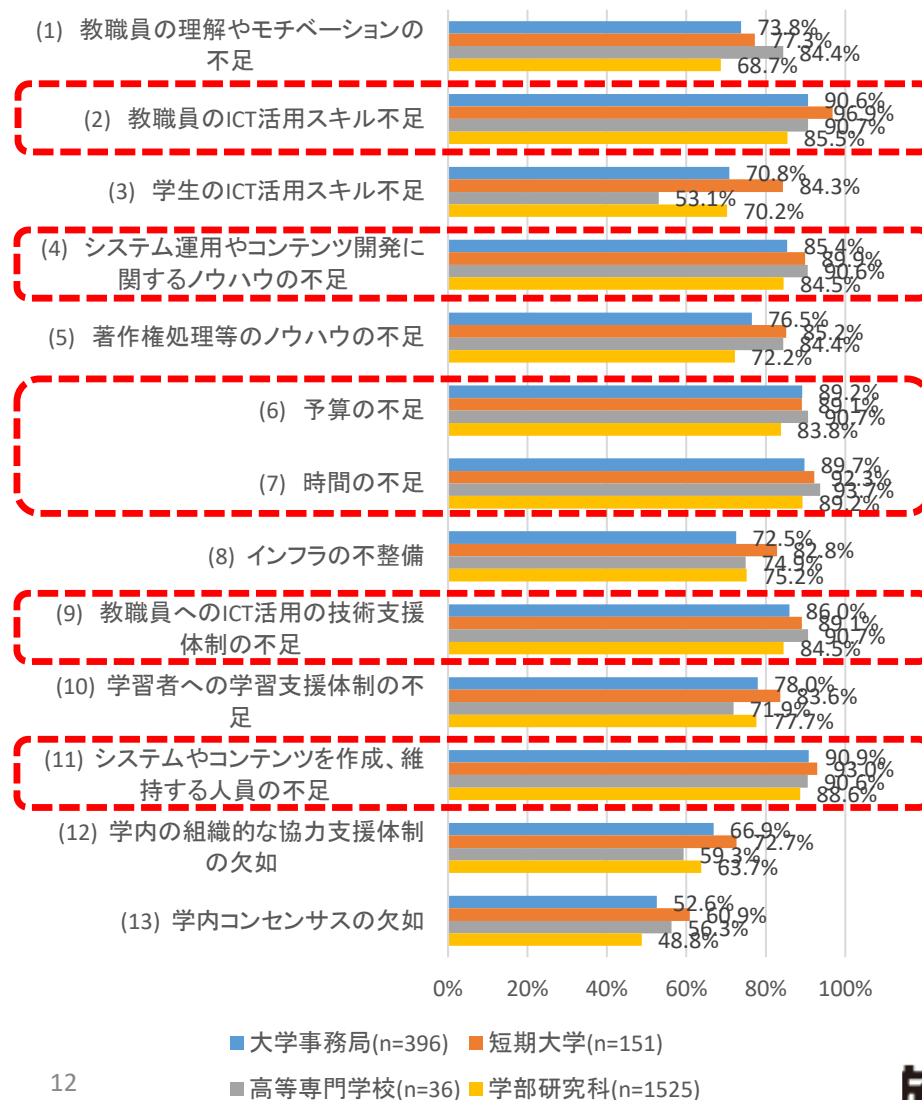


■ 多数存在する ■ やや存在する ■ あまり存在しない ■ 全く存在しない ■ 分からない

大学ICT推進協議会年次大会企画セッション2023.12.14

# 【2020年度調査】 阻害要因の詳細

- 8割を超えた項目
  - 教職員のICT活用スキル不足
  - システム運用やコンテンツ開発に関するノウハウの不足
  - 予算・時間の不足
  - 教職員へのICT活用の技術支援体制の不足
  - システムやコンテンツを作成、維持する人員の不足



# 2023年度調査項目③阻害要因の詳細

Q：その阻害要因は何ですか？以下の各項目についてご回答下さい

(1) 教職員の理解やモチベーションの不足	(8) インフラの不整備
(2) 教職員のICT活用スキル不足	(9) 教職員へのICT活用の技術支援体制の不足
(3) 学生のICT活用スキル不足	(10) 学習者への学習支援体制の不足
(4) システム運用やコンテンツ開発に関するノウハウの不足	(11) システムやコンテンツを作成、維持する人員の不足
(5) 著作権処理等のノウハウの不足	(12) 学内の組織的な協力支援体制の欠如
(6) 予算の不足	(13) 学内コンセンサスの欠如
(7) 時間の不足	

## 2020年度調査項目から据え置き

# 2023年度調査項目修正のポイント

## • ICT活用教育における・・・

- 「期待される効果」
- 「得られた効果」
- 「阻害要因」



「ICT活用教育」という用語の粒度の大きさを踏まえて、調査の経年変化(定点観測的な)の観点を重視してあまり項目を変化させない形に



しかし、コロナ禍を経て、「ICT活用教育に効果を見出している機関にはどのような特徴があるのか」を明らかにする必要

# 2023年調査後の分析方法

1. ICT活用教育の導入により「得られた効果」が生じている機関の特徴を改めて見出したい
  - 「得られた効果」の詳細17項目の探索的因子分析により「教育効果」「教育方法改善」などの4因子を抽出(辻ほか 2016)
2. 因子の尺度得点と他の調査項目との関連性を検討したい
  - 組織戦略
    - 大学規模(学生数/学部数)
    - アクションプランの有無・詳細性
    - 全学的推進組織の有無
  - ICT活用教育実施状況
    - 遠隔授業の実施の度合い
    - コロナ前後のブレンド型授業/オンライン授業の増減
    - 教材の共有・再利用の実施の有無
    - LMSの利用科目数の多い機関
  - 組織戦略
    - 技術/教育支援体制の有無
    - 教員/学生の支援内容
  - コロナ対応
    - 大学機関におけるオンライン授業/ハイブリッド授業の選択肢の多さ

大学ICT推進協議会2023年度年次大会@名古屋国際会議場  
企画セッション：ICT利活用調査部会

14PM1E: 高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望  
～令和5年度調査の結果から～

遠隔授業形態とICTツールの活用状況への  
コロナ禍の影響（ICT活用教育実施状況）

AXIES ICT利活用調査部会  
平岡齊士（放送大学）

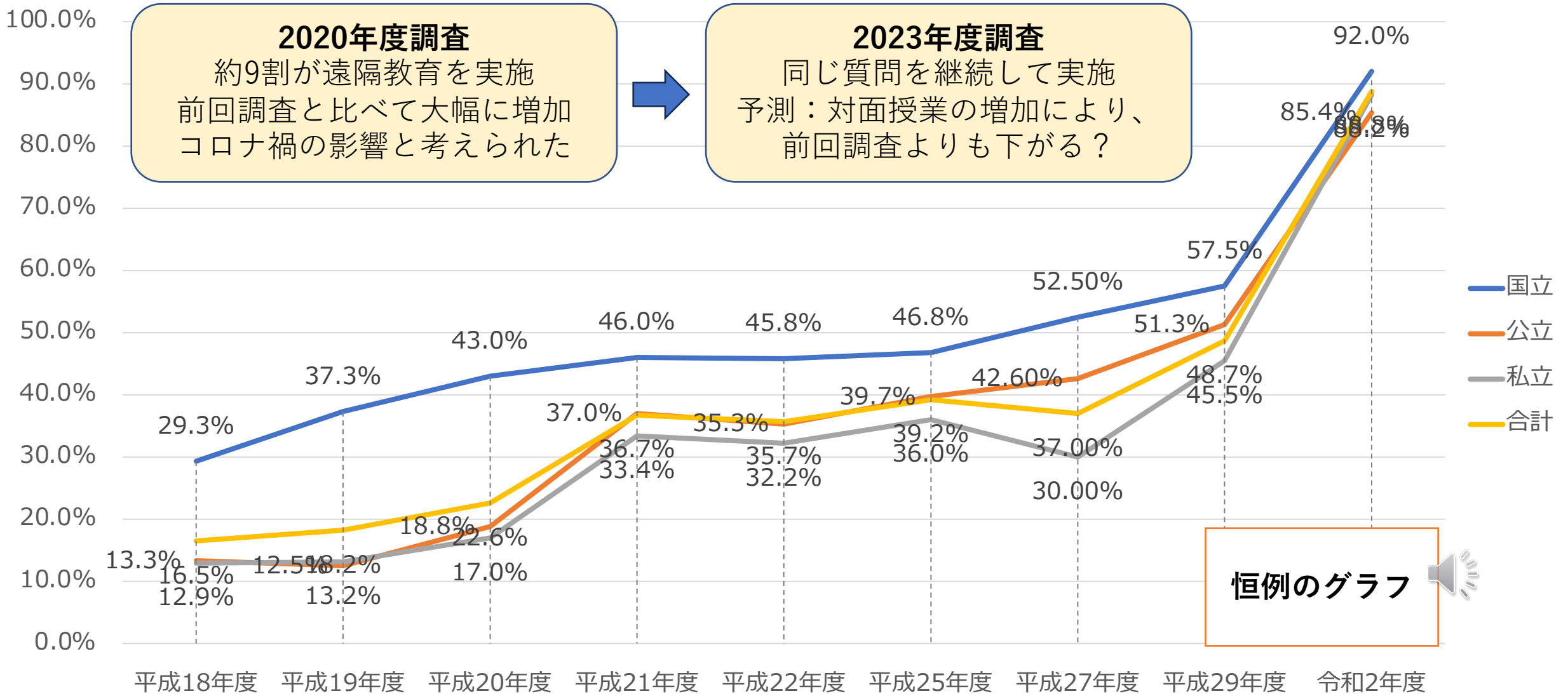


# 本カテゴリの質問項目

- 遠隔教育の実施割合  
（リアルタイム/同時双方向型/オンデマンド）
- ICTツールの利用状況と利用目的（教員向け調査へ）
- 教材・コンテンツの作成方法・主体者
- 教材の他大学との共有の有無
- シラバスのWeb公開（令和5年度は除外）
- コロナ禍前後での遠隔教育の実施状況の変化（新規追加）



# インターネット等を用いた遠隔教育の実施割合の推移（2020年度調査まで）





# 2020年度調査：よく使われているICTツール

(「とてもよく使っている」でソート)

	とてもよく使	よく使って	あまり使っ		
(1) パワーポイント等のスライド	77.2%	19.5%	1.4%		
(12) LMS	47.7%	17.8%	14.1%		
(8) テレビ会議・ウェブ会議システム(ポリコム等)	37.3%	26.7%			
(16) コラボレーションツール(Google Docs、SharePoint、Office365等)	35.7%	27.5%	16.7%		
(2) Web上の教材・ビデオ	29.0%	40.9%	19.8%	0.6%	9.7%
(3) 講義映像等のストリーミングビデオ	23.5%	34.6%	27.3%		
(15) ファイル共有ツール(Dropbox等)	19.0%	24.9%			
(9) チャット・ビデオチャット(Skypeなど)	16.5%	27.3%	34.8%		
(13) eポートフォリオシステム(Mahara等)	10.5%	10.8%	30.4%		
(5) 携帯・スマートフォン・タブレットのアプリケーション	9.8%	23.5%	41.6%		
(4) シミュレーション教材	5.6%	18.0%	43.3%	7.5%	25.6%
(10) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Facebook、Twitter、LINE等)	4.3%	15.6%	41.9%	17.6%	20.6%
(14) クリッカー(レスポンスアナライザ)	3.1%	12.9%	36.9%	25.5%	21.6%
(7) 電子書籍・電子教科書	2.8%	11.2%	48.9%	17.4%	19.7%
(6) 電子黒板	2.5%	11.5%	46.9%	25.0%	14.1%
(11) ブログ	1.2%	4.9%	41.5%	27.9%	24.4%

授業実施のための  
必須ツール

授業のコンテンツ

# 2020年度調査:ICTツールの利用目的

(「よくあてはまる」でソート)

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまる	ほとんどあてはまる	全くあてはまる
(20) オンライン授業の実施	80.5%	15.9%			
(1) 学校情報の伝達	78.4%	17.9%			
(2) 授業に関する教材の提供	74.1%	22.2%			
(13) レポートなどの提出	69.6%	26.6%			
(16) 授業評価やアンケート	60.9%	28.6%			
(7) 学生・教員間のコミュニケーション	46.6%	43.5%			
(3) 授業外学習に対する支援	41.4%	35.9%	10.7%	1.1%	4.0%
(17) 授業の感想や振り返り	39.0%	42.1%	11.0%	2.9%	4.0%
(4) 自学自習	36.9%	41.4%			
(12) テスト・アセスメント	26.2%	44.7%			
(14) これまでの学習活動のポートフォリオの提供(学習記録の提供)	23.0%	31.8%			
(18) 自己評価・他者評価・相互評価	18.0%	32.1%			
(15) 教育改善に向けた学習データの分析	17.2%	35.6%			
(19) 学外向けの宣伝	16.2%	18.9%			
(9) 学習者間のグループ活動による学習	16.1%	44.9%	20.0%	5.4%	7.0%
(6) 反転授業	15.4%	37.1%	28.5%	5.9%	13.0%
(8) 学生間のコミュニケーション	15.3%	30.4%	37.2%	7.7%	9.4%
(5) リメディアル教育	13.2%	24.3%	38.0%	12.0%	12.5%
(11) 発見型・探索型学習	11.0%	35.9%	32.3%	5.9%	14.9%
(10) 授業中の投票	10.4%	37.6%	30.2%	8.1%	13.6%

「授業を実施するための支援」  
が主たる目的

次いで自学自習やテストなどの  
学習自体の支援

# 用いているICTツール

(コロナ前ーコロナ禍中比較:2017-2020年度調査の差分)

	とてもよく	よく使って	あまり使っ	全く使っ	分からない
(1) パワーポイント等のスライド	12.8	-7.1	-2.1	-0.8	-2.7
(2) Web上の教材・ビデオ	11.1	5.1	-11.7	-1.8	-2.8
(3) 講義映像等のストリーミングビデオ	17.8	18.9	-19.7	-8.8	-8.2
(4) シミュレーション教材	1.4	2.6	1.5	-4.1	-1.5
(5) 携帯・スマートフォン・タブレットのアプリケーション	6.2	9.4	-2.7	-10.3	-2.7
(6) 電子黒板	0.1	1.8	6.7	-11.2	2.7
(7) 電子書籍・電子教科書	0.8	4.5	3.9	-9.6	0.3
(8) テレビ会議・ウェブ会議システム(ポリコム等)	33.8	19.6	-13.6	-33.8	-6.0
(9) チャット・ビデオチャット(Skypeなど)	15.7	22.2	-2.4	-29.7	-5.7
(10) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Facebook、Twitter、LINE等)	2.5	9.2	6.3	-14.5	-3.5
(11) ブログ	0.7	1.8	9.2	-10.0	-1.7
(12) LMS	34.1	-0.2	-13.7	-12.2	-8.0
(13) eポートフォリオシステム(Mahara等)	5.8	2.1	1.7	-7.0	-2.5
(14) クリッカー(レスポンスアナライザ)	1.6	4.1	-0.1	-6.2	0.5
(15) ファイル共有ツール(Dropbox等)	14.3	8.5	-5.5	-10.6	-6.8
(16) コラボレーションツール(Google Docs、SharePoint、Office365等)	28.9	12.7	-13.3	-14.3	-14.0

ウェブ会議システム、LMS、コラボレーションツールが大きく増加  
ほとんどのICTツールの使用割合が増加

# 用いているICTツールの利用目的

(コロナ前ーコロナ禍中比較: 2017-2020年度調査の差分 学部研究科のみ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	分からない
(1) 学校情報の伝達	12.4	-5.9	-1.0	-1.9	-3.6
(2) 授業に関する教材の提供	25.6	-14.6	-4.3	-3.1	-3.6
(3) 授業外学習に対する支援	12.4	-3.3	-0.2	-3.6	-5.3
(4) 自学自習	8.1	1.7	-1.3	-4.0	-4.6
(5) リメディアル教育	2.9	2.0	5.8	-5.8	-4.9
(6) 反転授業	6.4	11.0	-1.4	-10.4	-5.6
(7) 学生・教員間のコミュニケーション	14.5	2.6	-7.8	-4.5	-4.8
(8) 学生間のコミュニケーション	2.8	9.5	1.4	-8.6	-5.1
(9) 学習者間のグループ活動による学習	6.1	16.0	-7.2	-8.4	-6.5
(10) 授業中の投票	5.4	14.5	-1.3	-16.9	-1.6
(11) 発見型・探索型学習	2.3	10.5	-0.6	-8.4	-3.8
(12) テスト・アセスメント	11.9	12.8	-7.0	-11.2	-6.6
(13) レポートなどの提出	30.0	-13.6	-7.6	-4.1	-4.7
(14) これまでの学習活動のポートフォリオの提供(学習記録の提供)	5.5	1.8	3.2	-5.0	-5.4
(15) 教育改善に向けた学習データの分析	3.9	5.3	1.5	-7.4	-3.3
(16) 授業評価やアンケート	26.4	-1.3	-8.7	-10.7	-5.7
(17) 授業の感想や振り返り	19.7	5.2	-8.9	-9.1	-7.0
(18) 自己評価・他者評価・相互評価	4.6	7.1	1.1	-8.5	-4.3
(19) 学外向けの宣伝	1.7	-3.7	7.8	-3.1	-2.3
(20) オンライン授業の実施					

「授業に関する教材の提供」「レポートなどの提出」「授業評価やアンケート」が大きく増加、  
「あてはまらない」は軒並み減少。

前回調査：

コロナ前（2017年度）－コロナ禍中（2020年度）の比較をした

今回調査：

コロナ前（2019年度）－コロナ後（2023年度）の比較がしたい



# コロナ禍の影響を直接問う新たな質問項目

問16. 次の項目に関して、コロナ禍以前の2019年度と2023年度を比較し、実施状況の変化を回答してください。

(とても減少した、減少した、変わらない、増加した、とても増加した、わからないの6択)

- (1) 遠隔授業を一部に取り入れた「面接授業」の実施
- (2) 「メディア授業」の実施
- (3) オンラインでの学生指導やゼミの実施
- (4) 学内限定のオンラインイベント・セミナーの実施
- (5) 学外に開かれたオンラインイベント・セミナーの実施
- (6) オンライン会議の実施



Q18: 問16. 次の項目に関して、コロナ禍以前の2019年度と2023年度を比較し、実施状況の変化を回答してください。（令和5年度調査の新項目）

- 速報値（回答数: 18 スキップ数: 3）

	とても減少した	やや減少した	変わらない	やや増加した	とても増加した	分からない	合計	加重平均
1) 遠隔授業を一部に取り入れた「面接授業」の実施	33.33% 6	33.33% 6	11.11% 2	11.11% 2	11.11% 2	0.00% 0	18	2.33
2) 「メディア授業」の実施	27.78% 5	33.33% 6	16.67% 3	11.11% 2	5.56% 1	5.56% 1	18	2.50
3) オンラインでの学生指導やゼミの実施	33.33% 6	27.78% 5	16.67% 3	5.56% 1	11.11% 2	5.56% 1	18	2.50
4) 学内限定のオンラインイベント・セミナーの実施	27.78% 5	27.78% 5	11.11% 2	22.22% 4	5.56% 1	5.56% 1	18	2.67
5) 学外に開かれたオンラインイベント・セミナーの実施	33.33% 6	22.22% 4	16.67% 3	16.67% 3	11.11% 2	0.00% 0	18	2.50
6) オンライン会議の実施	27.78% 5	27.78% 5	0.00% 0	16.67% 3	27.78% 5	0.00% 0	18	2.89



高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望  
～令和5年度調査の結果から～

# 支援体制について

酒井 博之 (京都大学)

京都大学





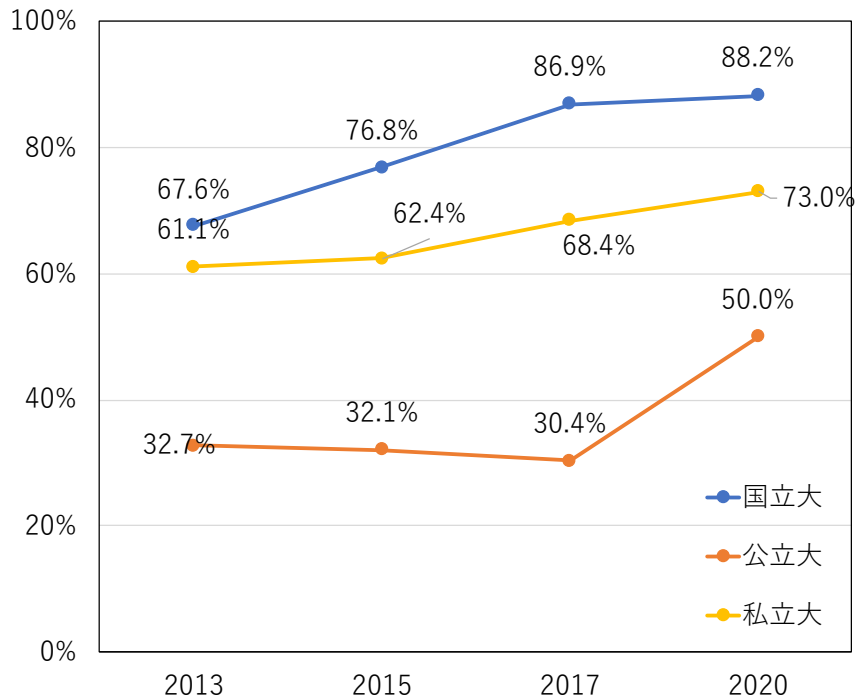
# 支援体制カテゴリ（2020年度調査）

## 機関における ICT 活用教育の技術的・教育的支援体制に関する設問群

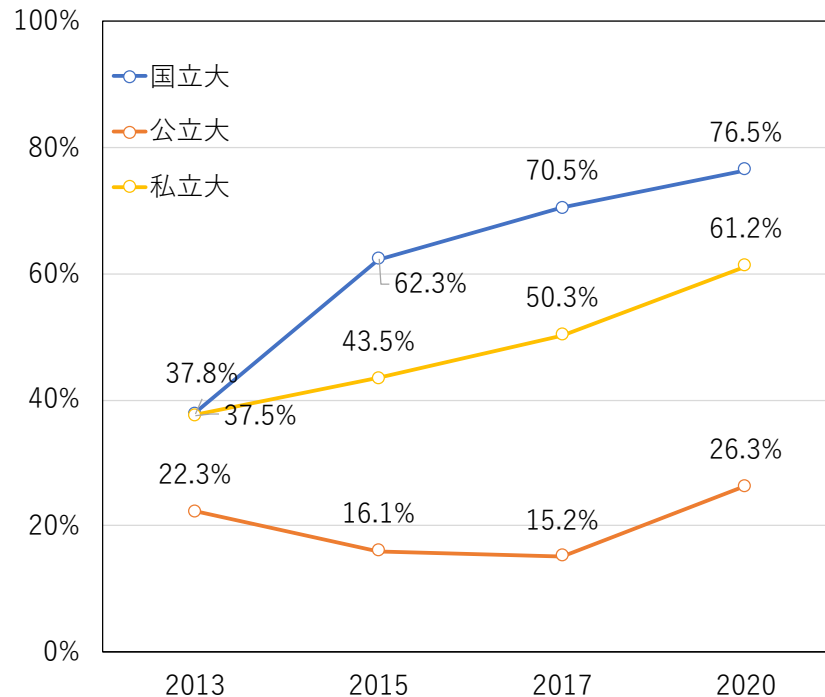
- **技術／教育支援組織について（4問）**
  - ICT 活用教育の運用のための全学的な技術／教育支援組織の有無
  - 支援組織の名称、スタッフ数・内訳
- **技術／教育支援組織が抱える問題点（2問）**
- **ICT セキュリティ関連のインシデント（1問）**（技術支援組織のみ）
- **技術支援組織と教育支援組織が行う支援について（2問）**
  - 技術／教育支援組織が**教員**に対して行う支援
  - 技術／教育支援組織が**学生**に対して行う支援

# 技術支援・教育支援組織の有無（設置者別）

## 技術支援組織



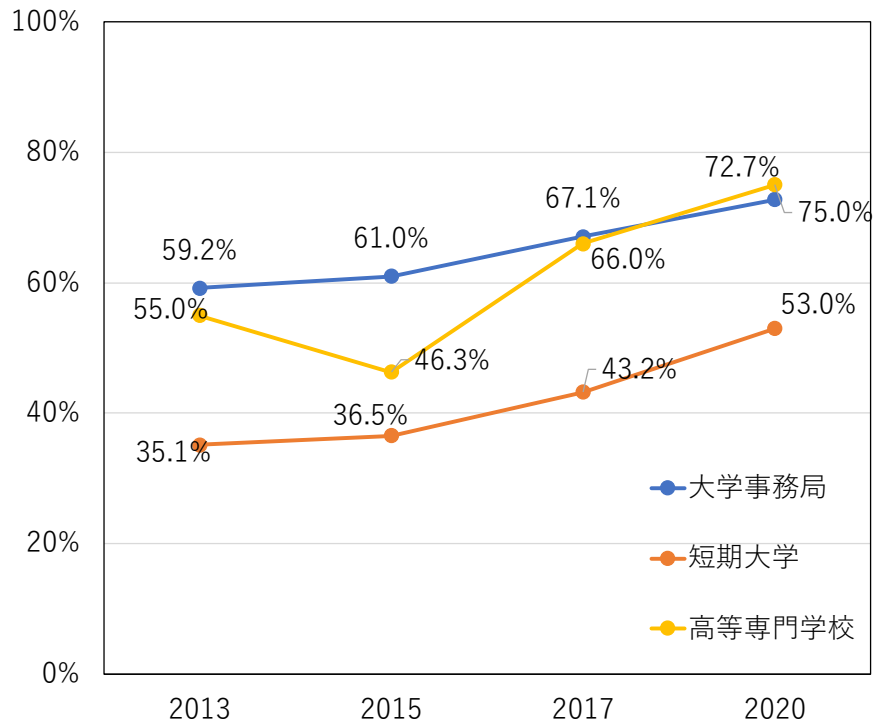
## 教育支援組織



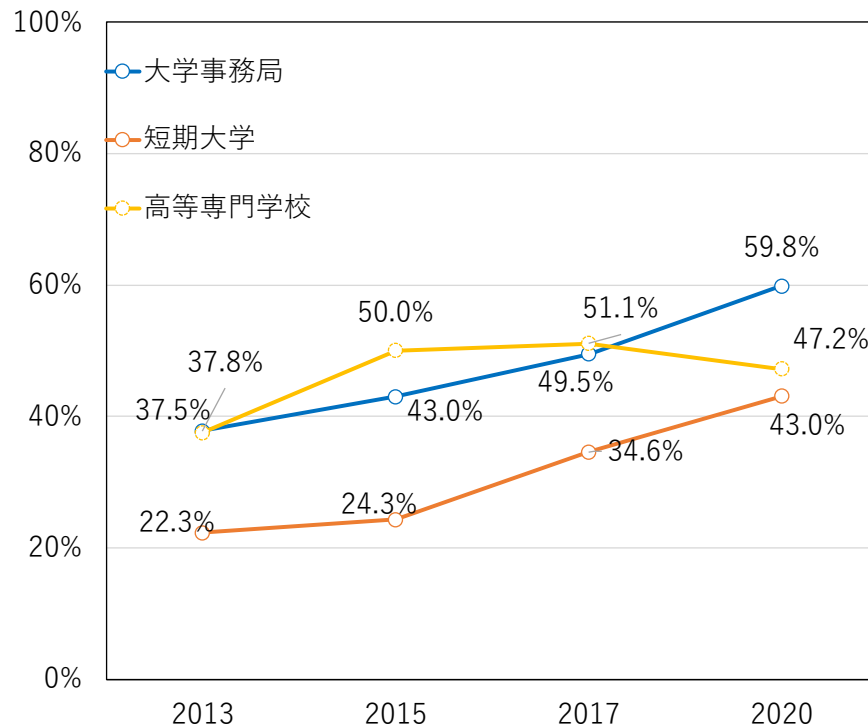
- 技術支援組織：国立大（88.2%）が最も設置率が高い。公立大は前回調査から約2割増加し50.0%
- 教育支援組織：国立大（76.5%）が最も高い。公立大は26.3%とやや低調
- いずれの設置者においても技術支援組織を持つ機関が教育支援組織を持つ機関を上回る

# 技術支援・教育支援組織の有無（機関種別）

技術支援組織



教育支援組織



- 技術支援組織：高専は大学事務局と同程度の設置率
- 教育支援組織：高専は前回調査から3.9%減少し47.2%
- 短大は両支援組織で大学全体より2割程度設置率が低い

# 支援組織に関する設問

「**技術／教育支援組織が存在する**」の回答者に対する設問

- A. 組織の名称
- B. 組織のスタッフ数（常勤・非常勤）
- C. スタッフの内訳
  - 専任教員・兼任教員・職員・アルバイト(職員)・アルバイト(学生)・その他
- D. C の内訳の中で、直接技術支援を行っている人数
  - 専任教員・兼任教員・職員・アルバイト(職員)・アルバイト(学生)・その他

削除

# 組織の抱える問題点に関する設問

- その組織の抱えている問題点について

現状維持

選択肢：

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| (1) 予算の不足           | (2) 技術的支援のための人員の不足   |
| (3) 経営側の理解不足        | (4) 教員の理解不足          |
| (5) 知識・経験のあるスタッフの確保 |                      |
| (6) 組織内の人材育成        | (7) ICT 活用教育に関する情報不足 |
| (8) 特になし            | (9) その他（具体的に ）       |
| (10) 分からない          |                      |

# セキュリティインシデントに関する設問

- ICT セキュリティに関して、昨年度 1 年間に起こったインシデントについて

選択肢：

- (1) 個人情報の盗難・紛失 (ノート PC・USB デバイス等)
- (2) 組織のネットワークへの外部からの攻撃・侵入
- (3) コンピュータウイルス
- (4) スパイウェア
- (5) SNS に関連する事件・事故
- (6) ホームページの改ざん
- (7) 特になし
- (8) その他 (具体的に )
- (9) 分からない

削除

ICT 利活用教育に直接関連するとは言えないため、削除

# 教員に対する支援に関する設問

- 選択肢を整理 (26→19項目)
- 技術／教育組織は教員に対して次の支援を行っているか

- 技術支援組織と教育支援組織が行っている
- 技術支援組織が行っている
- 教育支援組織が行っている
- 行っていない
- 分からない

# 教員に対する支援に関する設問

- 削除した項目 (7項目)
  - ICT 利活用教育に関連の薄い項目を中心に削除
  - 前回調査でコロナ対応分として追加した項目

削除

- LMS 以外の授業用グループウェアやコミュニケーションツールの提供・管理運営
- 授業用 Web ページ作成支援 (作成補助、助言)
- ICT 活用実施に関する資金補助
- ICT 活用授業の教員相互参観の促進
  
- モバイルルータの貸出
- オンライン授業実施に関わる支援サイトの作成
  
- 教室以外の学生のための学習空間の提供・管理運営 (ラーニングコモンズ、自習室等)

前回コロナ  
対応で追加

学生に対する  
支援へ移動



# 参考：教員に対する支援に関する設問


- (1) LMS の提供・管理運営
- (2) e ポートフォリオシステムの提供・管理運営
- (3) ストリーミングサーバの提供・管理運営
- (4) e ラーニングコンテンツ作成システム（スタジオ等）の提供・管理運営
- (5) ビデオ教材作成支援（作成補助、助言）
- (6) 教室間・キャンパス間を接続するテレビ会議システムの提供・管理運営
- (7) ビデオ会議サービスのライセンスの提供・管理運営
- (8) PC・端末貸出
- (9) ソフトウェア貸出・提供
- (10) インストラクショナルデザインなどに基づく教授設計支援
- (11) ICT 活用の個別相談・指導
- (12) ICT 活用事例の収集・広報・紹介
- (13) ICT 利用のためのヘルプデスクの設置・管理運営
- (14) ICT 利用のためのパンフレット・支援サイトの配布・公開
- (15) ICT 利用のための講習会・セミナーの実施
- (16) 学外で行われる教育利用のための講習会・セミナーの紹介
- (17) 学生アンケートによる授業方法改善の提案
- (18) BYOD（PC 必携化）の支援
- (19) その他

# 学生に対する支援に関する設問

- 追加した項目 (4項目)
  - 教員に対する項目に合わせて項目を追加

- **ビデオ会議サービスのライセンスの提供・管理運営**
- **ICT 活用のための TA の研修**
- **BYOD (PC 必携化) の支援**
- **教室以外の学生のための学習空間の提供・管理運営  
(ラーニングコモンズ、自習室等)**

教員に対する  
支援より移動



# 参考：学生に対する支援に関する設問

- (1) ビデオ会議サービスのライセンスの提供・管理運営
- (2) PC・端末貸出
- (3) ソフトウェア貸出・提供
- (4) ICT 利用のためのヘルプデスクの設置
- (5) ICT 利用のためのパンフレット・支援サイトの配布・公開
- (6) ICT 利用のための講習会・セミナーの実施
- (7) ICT 活用のための TA の研修
- (8) 掲示板や学習クラブなど学生コミュニティの運営
- (9) 学生アンケート結果の開示・返答
- (10) BYOD (PC 必携化) の支援
- (11) 教室以外の学生のための学習空間の提供・管理運営 (ラーニングコモンズ、自習室等)
- (12) その他

14PM1E： 高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望

～令和5年度調査の結果から～

# コロナ禍以降の大学におけるオンライン授業支援

---

伏木田 稚子（東京都立大学）

✉ [fushikida-wakako@tmu.ac.jp](mailto:fushikida-wakako@tmu.ac.jp)

# 本報告の流れ

- **オンライン授業支援の調査とは** [p.3]
- **なぜ、オンライン授業支援の調査が必要なのか** [p.5-p.15]
  - 先行研究を踏まえた意義 [p.6]
  - 令和2年度調査で得られた示唆 [p.7-p.15]
- **オンライン授業支援の調査を通して何を見たいのか** [p.16-p.30]
  - 令和5年度調査の前提／目的とRQ [p.17-p.19]
  - 主な質問項目（機関向け）／分析方針案 [p.20-p.30]

# オンライン授業支援の調査とは

# オンライン授業支援の調査とは

---

高等教育機関において、オンライン授業の実施にかかわる  
教職員の取り組みに焦点を当て、

**必要な支援の過不足を議論するための素地**を提案する

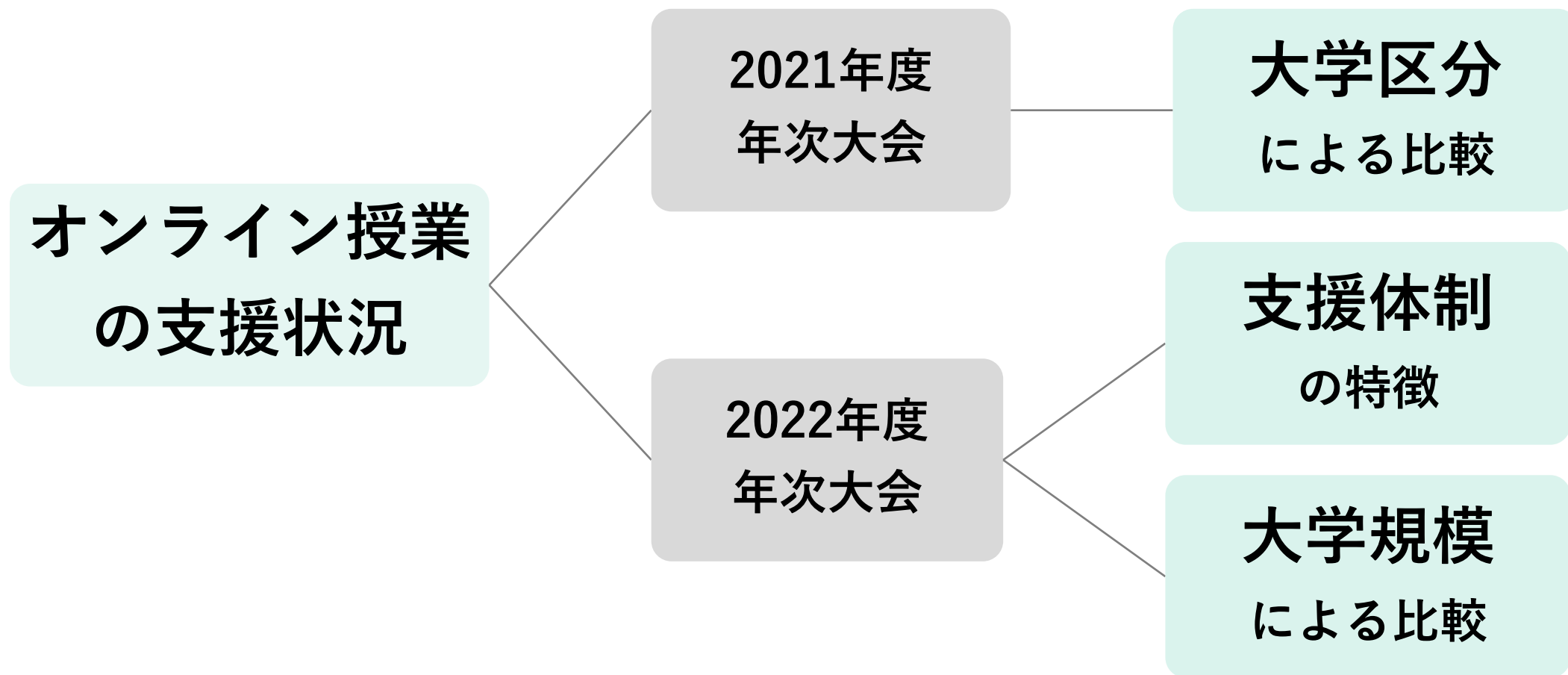
なぜ、オンライン授業支援の調査が  
必要なのか



# 先行研究を踏まえた意義

- 高等教育機関における緊急遠隔教育 (Emergency Remote Education) の経験を評価し、今後の遠隔教育やオンライン学習に反映させることが重要である (Hodges *et al.*, 2020)
- 将来の混乱に備え、「普段の教育プロセスにおいて効果的なICTツールの利用を増やすにはどうすればよいか」を議論できる (Oliveira *et al.*, 2021)


# 令和2年度調査で得られた示唆



**必要な支援**（補助金等の配分を含む）を大学区分や規模別に再考する必要性

# 令和2年度調査で得られた示唆 — 大学区分による比較

## 国立大学で多い支援


- ICT活用教育に関する，既存の全学の**技術・教育支援組織**
-  • 教員・学生向けのビデオ会議サービス・**学習管理システム（LMS）**の使い方に関する**情報提供**
- **職員**が対象の講習会

# 令和2年度調査で得られた示唆 — 大学区分による比較

## 公立大学で多い支援

- ビデオ会議用機器の貸し出し

## 私立大学で多い支援

-  • 教員・学生向けの**ビデオ会議サービスの使い方**に関する**情報提供**
- ビデオ会議用機器の貸し出し

# 令和2年度調査で得られた示唆 — 大学区分による比較

## 公立大学で少ない支援

- ICT活用教育に関する、既存の全学の**技術・教育支援組織**

## 短期大学で少ない支援

- ICT活用教育に関する、既存の全学の**技術支援組織**



- 教員・学生向けの全般的な**情報提供**
- ビデオ会議用機器の貸し出し

# 令和2年度調査で得られた示唆 – 大学区分による比較



## 教員向けにどのような情報が提供されたのか？

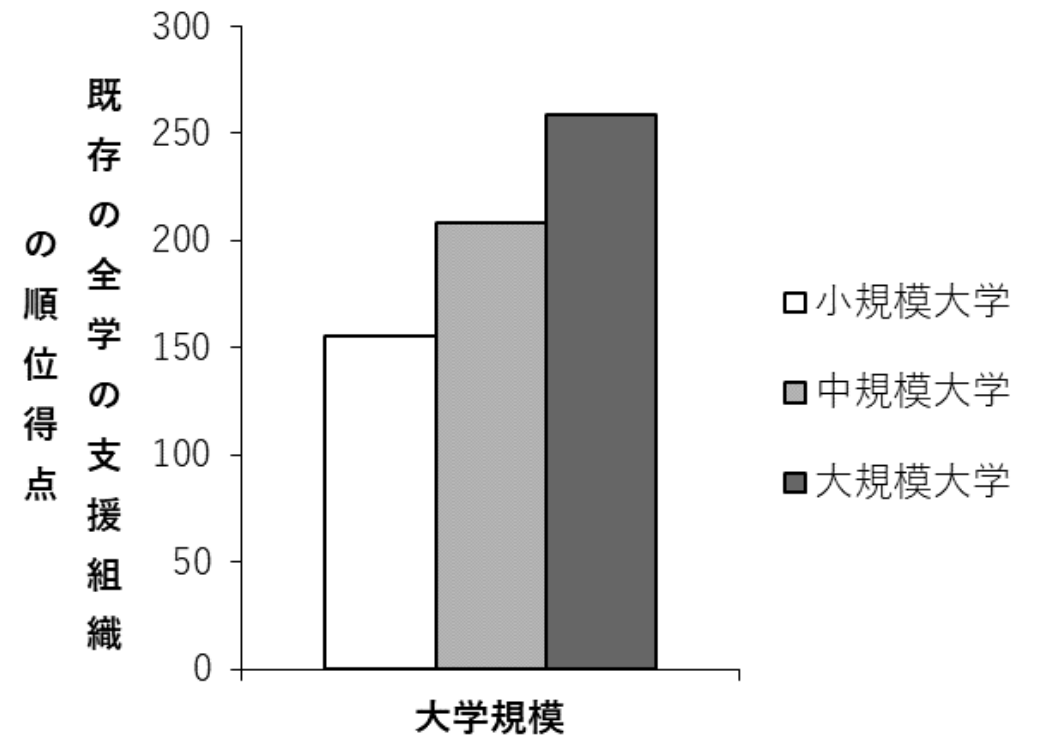
教員向けのオンライン授業の情報提供	国立大学		公立大学		私立大学		短期大学		高等専門学校		$\chi^2$ 検定
	度数(校)	比率(%)	度数(校)	比率(%)	度数(校)	比率(%)	度数(校)	比率(%)	度数(校)	比率(%)	
オンライン授業の概要と実施方法	49	96.1%	35	92.1%	285	92.8%	133	88.1%	35	97.2%	<i>n.s.</i>
ビデオ会議サービスの使い方	49	96.1%	32	84.2%	262	85.3%	98	64.9%	25	69.4%	38.1**
学習管理(LMS)システムの使い方	44	86.3%	24	63.2%	217	70.7%	85	56.3%	25	69.4%	18.7**
FAQ	32	62.8%	15	39.5%	157	51.1%	38	25.2%	15	41.7%	35.7**
学習状況の把握方法	24	47.1%	6	15.8%	106	34.5%	39	25.8%	14	38.9%	14.1**
成績評価の方法	23	45.1%	6	15.8%	117	38.1%	39	25.8%	17	47.2%	17.8**

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

# 令和2年度調査で得られた示唆 — 支援体制の特徴

## 支援体制にどのような特徴があるか？


- 支援体制は、**既存の全学の支援組織**と**教員の自助努力**に分類される
- 大学規模が大きくなるほど、**全学支援の充実**が図られている



$$\chi^2(2) = 37.87, p = .00, \eta^2 = .10$$

# 令和2年度調査で得られた示唆 — 大学規模による比較

## 中規模・大規模大学で多い支援

- ICT活用教育に関する，既存の全学の**技術支援組織**
-  • 教員・学生向けの**学習管理システム（LMS）**の使い方に関する情報提供


## 大規模大学でやや多い支援

- **TA等（OA，SAを含む）**が対象の講習会
- 環境拡充のための，ICT活用教育関係の**金銭的支援**



# 令和2年度調査で得られた示唆 — 大学規模による比較

## 小規模大学で少ない支援

- ICT活用教育に関する，既存の**全学の技術／教育支援組織**
-  • 教員向けの**LMSの使い方・FAQ**などの**情報提供**
- 学生向けのオンライン授業の実施方法・**LMSの使い方**に関する**情報提供**

## 中規模大学で少ない支援

- **学生とTA等（OS，SAを含む）**が対象の講習会

# 令和2年度調査で得られた示唆 – 大学規模による比較



## 教員向けにどのような情報が提供されたのか？

教員向けのオンライン授業の情報提供	小規模大学		中規模大学		大規模大学		$\chi^2$ 検定	Cramer's V
	度数 (校)	比率 (%)	度数 (校)	比率 (%)	度数 (校)	比率 (%)		
オンライン授業の概要と実施方法	109	91.6%	215	93.1%	45	100.0%	<i>n.s.</i>	.10
ビデオ会議サービスの使い方	92	77.3%	206	89.2%	44	97.8%	15.00**	.20
学習管理システム (LMS) の使い方	62	52.1%	180	77.9%	43	95.6%	39.91**	.32
FAQ	36	30.3%	126	54.6%	42	93.3%	53.90**	.37
学習状況の把握方法	31	26.1%	80	34.6%	25	55.6%	12.60**	.18
成績評価の方法	26	21.9%	93	40.3%	27	60.0%	22.99**	.24

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

# オンライン授業支援の調査を通して 何を見たいのか

# 令和5年度調査の前提

## 「コロナ禍以降の大学におけるオンライン授業支援」の扱い

- コロナ禍（2020年度～2022年度）を中心に、コロナ後（2023年度）も含めて焦点を当てる
- ハイブリッド授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）にも言及することで、大学の学習環境を捉える射程を広くとりたい

# 令和5年度調査の目的

コロナ禍以降（2020年度～2023年度）の高等教育機関において、**オンライン授業およびハイブリッド授業**の実施はどのように支援され、何が課題となっているのかを明らかにする

# 令和5年度調査のRQ

- I. オンライン授業およびハイブリッド授業は、どのように支援されていた／いるのか  
2023年度については「どの程度実施されているのか」という問いを含む
- II. コロナ対応を経て、オンライン授業およびハイブリッド授業を実施する上で何が課題なのか

# 主な質問項目（機関向け）

## 2020年度～2022年度 オンライン・ハイブリッド授業の支援状況

【問45】支援体制， 【問46・問47】教員・学生向けの情報提供，  
【問48】講習会の実施， 【問49・問50】環境整備のための教員・学生向けの支援

## NEW 2023年度（5類感染症移行後）オンライン・ハイブリッド授業の支援状況

【問51】大学が実施を認めている授業形式， 【問52】実施を認めるまでの経緯，  
【問53】支援方法， 【問54】実施を支える要因についての認識

## VI. コロナ対応



新型コロナウイルス感染症を受けたオンライン授業およびハイブリッド授業の実施に関する、2020年度～2022年度の支援状況についてお聞きします。

問 45. どのような体制で支援を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	既存の全学の技術支援組織
2	既存の全学の教育支援組織
3	新たに組織された全学的な支援グループ（例. ワーキンググループ・委員会等）
4	教員のボランティアグループ
5	個々の教員
6	その他（      ）
7	支援体制がなかった
8	あてはまる選択肢がない



問 46. 配布書面やウェブサイト等を用いて、教員に向けた情報提供を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	オンライン授業の概要（種類・定義等を含む）
2	リアルタイム型オンライン授業の実施方法
3	キャンパス・大学間の同時双方向型オンライン授業の実施方法
4	オンデマンド型オンライン授業の実施方法
5	対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド授業の実施方法
6	ウェブ会議システムの使い方
7	学習管理システム（LMS）の使い方
8	教室設備（マイク・スピーカー・黒板・プロジェクター等を含む）の使い方
9	学習状況の把握方法
10	成績評価の方法
11	その他（ ）
12	情報提供を行っていない
13	あてはまる選択肢がない

問 47. 配布書面やウェブサイト等を用いて、学生に向けた情報提供を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	オンライン授業の概要（種類・定義等を含む）
2	リアルタイム型オンライン授業の受講方法
3	キャンパス・大学間の同時双方向型オンライン授業の受講方法
4	オンデマンド型オンライン授業の受講方法
5	対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド授業の受講方法
6	ウェブ会議システムの使い方
7	学習管理システム（LMS）の使い方
8	その他（      ）
9	情報提供を行っていない
10	あてはまる選択肢がない

問 48. オンライン授業およびハイブリッド授業の実施にあたり、誰を対象にした講習会を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	教員（非常勤講師を含む）
2	職員
3	学生
4	TA・SA・RA・OA 等
5	その他（ ）
6	講習会を行っていない
7	あてはまる選択肢がない

問 49. オンライン授業およびハイブリッド授業の実施に必要な環境を整備するため、教員に向けた支援を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	PC の貸し出し
2	ウェブ会議システムに必要な機器（例. カメラ・マイク）の貸し出し
3	ネットワーク接続に必要な機器（例. WiFi ルータ）の貸し出し
4	備品購入等にかかる資金補助
5	その他（ ）
6	環境整備を支援していない
7	あてはまる選択肢がない

問 50. オンライン授業およびハイブリッド授業の受講に必要な環境を整備するため、学生に向けた支援を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

1	PC の貸し出し
2	ウェブ会議システムに必要な機器（例. カメラ・マイク）の貸し出し
3	ネットワーク接続に必要な機器（例. WiFi ルータ）の貸し出し
4	備品購入等にかかる資金補助
5	その他（ ）
6	環境整備を支援していない
7	あてはまる選択肢がない



新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の、オンライン授業およびハイブリッド授業の実施に関する、2023年度の支援状況についてお聞きします。

問 51. 2023年度に大学が実施を認めているオンライン授業またはハイブリッド授業について、あてはまるものをすべて選択してください。なお、ここでのオンライン授業には、リアルタイム型、キャンパス・大学間の同時双方向型、オンデマンド型が該当します。



※ 表現を一部修正した上で、教員向け調査にも含める

1	完全オンライン授業（授業回すべてがオンライン）
2	ハイブリッド授業（50%以上の授業回がオンラインでそれ以外は対面）
3	ハイブリッド授業（25%～50%の授業回がオンラインでそれ以外は対面）
4	ハイブリッド授業（25%未満の授業回がオンラインでそれ以外は対面）
5	その他（      ）
6	オンライン授業またはハイブリッド授業の実施を認めていない

問 52. 問 51 で選択肢 1)～4)のいずれかを選択した方にお聞きします。オンライン授業またはハイブリッド授業の実施をどのように認めていますか。

1	特例措置として認めている（学部（研究科）・学科や大学の許可は不要）
2	教員の裁量に任せている（教員による申請は不要）
3	教員に事前の申請を求めている
4	学部（研究科）・学科で議論している
5	学部（研究科）・学科長が承認している
6	大学が実施の可否について方針を周知している
7	大学が実施の基準（例. ガイドライン）を公開している
8	その他（ ）
9	あてはまる選択肢がない



問 53. 問 51 で選択肢 1)～4)のいずれかを選択した方にお聞きします。オンライン授業またはハイブリッド授業の実施に関して、どのような支援を行っていますか。あてはまるものをすべて選択してください。

※ 表現を一部修正した上で、教員向け調査にも含める

1	配布書面やウェブサイト等を用いた教員への情報提供
2	配布書面やウェブサイト等を用いた学生への情報提供
3	教員に対する講習会の実施
4	学生に対する講習会の実施
5	教員に向けた環境整備（例. 機器の貸し出し、資金補助）
6	学生に向けた環境整備（例. 機器の貸し出し、資金補助）
7	その他（      ）
8	支援を行っていない
9	あてはまる選択肢がない



問 54. 問 51 で選択肢 1)～4)のいずれかを選択した方にお聞きします。オンライン授業またはハイブリッド授業の実施を支える要因として、何が重要だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

※ 表現を一部修正した上で、教員向け調査にも含める

1	全学の技術支援組織
2	全学の教育支援組織
3	全学的な支援グループ（例. ワーキンググループ・委員会等）
4	教員や学生に向けた情報提供
5	教員や学生に対する講習会の実施
6	教員や学生に向けた環境整備（例. 機器の貸し出し、資金補助）
7	教職員間での知識や技術の共有
8	教職員の ICT 活用スキル
9	学生の ICT 活用スキル
10	教職員の理解
11	学生の理解
12	その他（      ）
13	あてはまる選択肢がない



# 分析方針案

## A) 2020年度の調査結果との比較

- 2021年度～2022年度に，支援状況に変化が生じていたのか

## B) 2023年度の支援状況の特徴

- オンライン授業やハイブリッド授業は，継続して実施されているのか
- 大学区分や大学規模によって，支援にどのような違いがみられるのか

## C) オンライン授業やハイブリッド授業の実施を支える要因

- 授業実施にかかわる教職員は，何を重要だと認識しているのか

# 参考文献

伏木田稚子 (2022) 第7章 コロナ禍でオンライン授業はどのように広まっているのか (オンライン), 大学ICT推進協議会 (AXIES) ICT利活用調査部会: 高等教育におけるICTの利活用に関する調査研究 (2020年度調査) 結果報告書 (速報版), pp.63-68.

[https://ict.axies.jp/media/sites/11/2022/08/2020\\_axies\\_ict\\_survey\\_summary\\_v1.pdf](https://ict.axies.jp/media/sites/11/2022/08/2020_axies_ict_survey_summary_v1.pdf) (参照日 2023-11-01)

Hodges, C., Moore, S., Lockee, B., Trust, T., and Bond, A. (2020) The Difference Between Emergency Remote Teaching and Online Learning. EDUCAUSE Review, <https://er.educause.edu/articles/2020/3/the-difference-between-emergency-remote-teaching-and-online-learning> (参照日 2023-11-01)

Oliveira, G., Teixeira, G. J., Torres, A., and Morais, C. (2021) An Exploratory Study on The Emergency Remote Education Experience of Higher Education Students and Teachers During The COVID-19 Pandemic, *British Journal of Educational Technology*, Vol. 52, pp. 1357-1376.

---

# 【教員向け調査】

# 質問項目

---

- ICT活用教育実施状況
  - 授業中にどのようなICTツールを用いているか？
  - ICTツールの利用目的は？
- ハイブリッド型授業等の実施状況
  - 令和5年度の授業実施形態（対面・オンラインの割合）
  - 実施にあたり機関から受けた支援
  - （支援があった場合）支援した組織
- オープンエデュケーション
  - OERの認知
  - 授業におけるOERとMOOCの利用状況、利用形態

# 教員向けアンケートへのご協力願い

- 高等教育機関(大学・短大・高専)にご所属の教員であればどなたでもご回答いただけます
- 以下のQRコードよりご回答下さい
- パスワード:mdtl2ufg  
(2以外はアルファベット)

